

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	栄養学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	1学期	2	講義
担当教員	和田政裕・和田佐和子			
実務経験	医療施設等において、管理栄養士としての実務経験を有する。			

授業概要
人が生きていくと起こる様々な身体の現象を生理といい、このような人の生理と摂取した食物の関係、食物に含まれている栄養素の基本知識を習得する科目である。
到達目標
解剖学、生理学から発展して、人の体に食事がどう影響するかを理解することを目標とする。人の自然治癒力と栄養状態は密接に関係しており、鍼灸や徒手療法の治療効果を左右する要因となるため、ケガや体調の不調と栄養状態の関係を理解できるようになることが必要である。
準備学習
事前学習：栄養学については知らないことばかりで構わないので、講義前にテキストを読んで、知らない言葉や、読んでも理解できない内容を確認してから講義に臨む。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。(小数点以下切り捨て)

使用テキスト	『栄養の基本がわかる図解辞典』（中村丁字監修 成美堂出版 ISBN：978-4-415-32743-3）
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	栄養学とは、食べることの意味について考える
2	栄養アセスメント	栄養状態の把握の仕方 1
3	栄養アセスメント	栄養状態の把握の仕方 2
4	栄養素の基本	三大栄養素、五大栄養素
5	三大栄養素	炭水化物 1
6	三大栄養素	炭水化物 2
7	三大栄養素	たんぱく質
8	三大栄養素	脂質 1
9	三大栄養素	脂質 2
10	消化・吸収	消化
11	消化・吸収	吸収
12	五大栄養素	ビタミン
13	五大栄養素	ミネラル
14	総括	総復習
15	試験	定期試験
16	答案返却	試験の解説

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名		情報処理		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	1,2学期	2	講義
担当教員	山鹿 貴史			
実務経験	-			

授業概要
<p>収集した多量の情報に、コンピュータ等を使って分類・整理・選択・演算等の処理を施して、目的に応じた情報を得られるように加工する技術を身につけます。</p>
到達目標
<p>①情報を正しく適切に活用する力を身につけること。 ②ワード、エクセルが活用できること。 ③Teams（チームス）を使いこなせること。 ④授業の課題をメール等で送受信できること。 ⑤PowerPoint（パワーポイント）を活用して、プレゼンテーションができること。</p>
準備学習
<p>第1回目はガイダンスです。ガイダンス時に、2回目以降からの事前学習の内容を伝えます。</p>
成績評価
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）</p>

使用テキスト	<p>事前購入テキストはありません。 授業時に適宜参考資料・教材を案内します。</p>
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	授業の概要や流れを説明します。
2	情報リテラシー 1	情報社会におけるインターネットやSNSの適切な使い方を解説します。
3	情報リテラシー 2	情報社会における機密保持や個人情報保護の重要性を説明します。
4	情報リテラシー 3	情報社会におけるサイバー犯罪等の脅威について解説します。
5	コンピュータの基礎	コンピュータの歴史、機能、構成や、OS・Teams等の基本操作を学びます。
6	文書作成ソフト 1	Wordの基本的な操作について学びます。
7	文書作成ソフト 2	Wordの応用的な操作について学びます。
8	文書作成ソフト 3	Wordの応用的な操作について学びます。
9	表計算ソフト 1	Excelの基本的な操作について学びます。
10	表計算ソフト 2	Excelの応用的な操作について学びます。
11	表計算ソフト 2	Excelの応用的な操作について学びます。
12	プレゼンテーションソフト 1	PowerPointの基本的な操作について学びます。
13	プレゼンテーションソフト 2	PowerPointの応用的な操作について学びます。
14	プレゼンテーションソフト 3	PowerPointの応用的な操作について学びます。
15	まとめ	授業で学んだ知識・技術を活かして、プレゼンテーションを行います。

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	解剖学 I			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	通年	5	講義
担当教員	白崎 史剛			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要
この授業では、まず人体の骨の部位を一つ一つ覚えていき、次にそれをもとに筋肉の起始・停止・支配神経・作用という項目を覚えていくことで、一つ一つの筋肉がどのような動きをするのかを理解していく。1学期は骨について2学期は筋肉について小テストを行う。
到達目標
頭の中に人体の構造とくに骨と筋肉のイメージができ、どのように筋肉が作用するかを理解して、西洋医学の面と経絡経穴概論の東洋医学の面の両方から考える力を身につけるようになる。
準備学習
次回の授業で行う範囲のレジメを予習してくると同時に、その図解を頭の中でイメージしておくこと。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。(小数点以下切り捨て)

使用テキスト	教科書「解剖学（東洋療法学校協会編 医歯薬出版）」 参考書「プロメテウス解剖学アトラス（医学書院）」など
--------	---

授業計画		
回数	単元	内容
1	第1章 人体の構成	細胞の構造
2	第1章 人体の構成	物質の移動と細胞小器官
3	第1章 人体の構成	遺伝子 組織と器官
4	第1章 人体の構成	結合組織 運動の仕組み
5	10-I 総論	運動の作用
6	10-I 総論	骨格系総論
7	10-II 全身の骨格	脊柱
8	10-II 全身の骨格	胸郭と上肢の骨格
9	10-II 全身の骨格	上肢の骨格と関節
10	10-II 全身の骨格	骨盤
11	10-II 全身の骨格	下肢の骨格と関節
12	10-II 全身の骨格	頭蓋骨
13	10-II 全身の骨格	頭蓋骨の腔所
14	10-II 全身の骨格	筋系総論 浅胸筋
15	1学期期末試験	-
16	10-III 体幹	試験解説 浅胸筋
17	10-IV 上肢	浅背筋
18	10-IV 上肢	上肢帯
19	10-IV 上肢	上肢の屈筋群
20	10-IV 上肢	上肢の伸筋群 前腕浅層の屈筋群

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名		解剖学Ⅱ		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	1,2学期	4	講義
担当教員	阿江邦公			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要	
この授業では、はじめに人体の基本的な構成を講義で学んだ後、神経系、感覚器系の項目を学習する。神経系や感覚器系の解剖学の基礎を理解し、西洋医学と東洋医学の両方の授業へつなげていく力を身につける。	
到達目標	
人体の構造を理解し、鍼灸臨床現場で疾病の判別をするための知識を身につけることを目標とする。具体的には「神経」、「感覚器」について説明できるようになる。	
準備学習	
教科書などにより講義内容を事前に把握（予習）しておく。	
成績評価	
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。	

使用テキスト	『解剖学 第2版』（公益社団法人東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社発行）を使用する
--------	---

授業計画		
回数	単元	内容
1	第1章 人体の構成	神経組織
2	第8章 神経系	中枢神経（大脳）
3	第8章 神経系	中枢神経（間脳、脳幹）
4	第8章 神経系	中枢神経（小脳、脊髄）
5	第8章 神経系	中枢神経（脳室、髄膜、髄液）
6	第8章 神経系	中枢神経（脳の血管）
7	第8章 神経系	末梢神経（脳神経）
8	第8章 神経系	末梢神経（脳神経）
9	第8章 神経系	末梢神経（脳神経）
10	第8章 神経系	末梢神経（脳神経）
11	第8章 神経系	末梢神経（脊髄神経）
12	第8章 神経系	末梢神経（脊髄神経）
13	第8章 神経系	末梢神経（脊髄神経）
14	第8章 神経系	末梢神経（脊髄神経）
15	定期試験	
16	定期試験返却、復習	
17	第8章 神経系	末梢神経（脊髄神経）
18	第8章 神経系	末梢神経（脊髄神経）
19	第8章 神経系	末梢神経（脊髄神経）
20	第8章 神経系	末梢神経（脊髄神経）

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	生理学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	通年	7	講義
担当教員	山上正典			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要
<p>応用科目である病理学、臨床医学各論を学ぶ前に、人体の生理作用がどのように働くことで日々の生命活動が成り立っているかを学ぶ。授業は作成したパワーポイントのスライドを元に、プリントあるいはPDFファイルに重要なワードを書き込み、また小テストなどで理解度を確認しつつ学習していく。</p>
到達目標
<p>現代医学の応用科目を学ぶ前に必要となる生理学の重要なポイントを理解し、4択問題を解けるようになることを目指す。理想としては他人に説明できるレベルを目指したい。</p>
準備学習
<p>あらかじめUMUに授業資料をPDFで閲覧できるようにしておくので、それを事前に目を通しどのような内容をやるのかを確認しておく。</p>
成績評価
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。(小数点以下切り捨て)</p>

使用テキスト	生理学 東洋療法学校協会編
--------	---------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス・1章基礎①	授業の意義・生理学を学ぶにあたっての基礎
2	1章基礎②・2章循環①	循環器系の仕組み
3	2章循環②	循環器系の仕組み
4	2章循環③	循環器系の仕組み
5	2章循環④	循環器系の仕組み
6	3章呼吸①	呼吸器系の仕組み
7	3章呼吸②	呼吸器系の仕組み
8	復習	1・2・3章の復習
9	4章消化器系①	消化器系の仕組み
10	4章消化器系②	消化器系の仕組み
11	4章消化器系③	消化器系の仕組み
12	5章代謝①	代謝の仕組み
13	5章代謝②	代謝の仕組み
14	総復習	1学期の総復習
15	総復習	定期試験・1学期範囲の理解度確認
16	試験解説・体温①	体温調節の仕組み
17	体温②・7章排泄①	泌尿器系の仕組み
18	7章排泄②	泌尿器系の仕組み
19	8章内分泌①	内分泌系の仕組み
20	8章内分泌②	内分泌系の仕組み

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	関係法規			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	3学期	2	講義
担当教員	久住喜春			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要
「関係法規」（東洋療法学校協会編、医歯薬出版発行）を使用し、座学講義を行う。随時プリントを配布し、適宜参考資料を提供する。途中でオンデマンドが4回入り、終盤の4コマは開業に関する創業計画書や開業届の作成及び提出をする。
到達目標
「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」について我々の身分法となっている法の中身（免許・業務・広告・罰則等）の知識を身につける。また医療関係法規（医師法、医療法、薬機法）や社会福祉関係法規の目的や内容が説明できるようになる。
準備学習
事後学習：配布プリントと教科書をもとに復習を行う。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 ▼成績評価の方法

使用テキスト	『関係法規』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用
--------	-------------------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	法とは	法の種類、国内法の優先順位、インフォームドコンセント
2	あはき法①	業とは、免許の要件について
3	あはき法②	登録事務（開設届、免許申請等）
4	あはき法③	業務・広告制限
5	あはき法④・その他の関係法規①	罰則・医療法他
6	その他の関係法規	生活保護法、障害者福祉法、個人情報保護法
7	試験	定期試験
8	試験解説	試験解説・課題説明
9	オンデマンド①	衛生関係法規（地域保健法）
10	オンデマンド②	衛生関係法規（廃棄物の定義）
11	オンデマンド③	看板のあれこれ
12	オンデマンド④	法令遵守の概念
13	課題	10年後の夢について
14	課題	創業計画書の作成
15	課題	創業計画書の作成
16	課題	開設届、平面図作成

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	公衆衛生学 I			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	1学期	2	講義
担当教員	響谷 学			
実務経験	-			

授業概要
<p>公衆衛生学と医学は人々の健康を衛る学問である。臨床医学が目の中の患者さんを対象とするのに対し、公衆衛生学は公衆を対象とする。当科目では、公衆衛生学基本5領域の内、疫学、生物統計学、環境保健学を中心に扱う。特に実践的内容として消毒法についても詳説する。</p>
到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・病原体と宿主、感染経路について理解し、鍼灸師にとって必須である消毒法について知識を習得する ・研究論文について理解するために、生物統計学、疫学の基本を身につける ・疫学、生物統計学の指標である割合、比、率などについて理解し、保健統計の意味が理解できる
準備学習
<p>講義前：講義で取り扱う内容について教科書を一読しておくこと 講義後：課題に取り組み、講義内容の復習を行うこと</p>
成績評価
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。</p>

使用テキスト	教科書：「東洋療法学校協会編教科書 衛生学・公衆衛生学 第2版」 （東洋療法学校協会編、医歯薬出版） 参考書：「公衆衛生がみえる 2026-2027」（医療情報科学研究所編、メディアックメディア）
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	導入	公衆衛生学への招待、感染症・災害発生等時の公衆衛生活動
2	感染症とその対策 ①	感染症と微生物
3	感染症とその対策 ②	感染症の成立と予防
4	感染症とその対策 ③	免疫と臨床での感染予防
5	消毒法 ①	消毒法基礎
6	消毒法 ②	消毒の実際と感染制御
7	小括（1-6回）	感染症、消毒法のまとめと復習
8	疫学 ①	疫学の概念と因果関係
9	疫学 ②	疫学指標
10	疫学 ③	研究デザイン
11	疫学 ④	相対危険、寄与危険、オッズ比
12	保健統計 ①	生物統計学入門
13	保健統計 ②	疫学・生物統計学の実践 保健統計の指標 ①
14	保健統計 ③	疫学・生物統計学の実践 保健統計の指標 ②
15	小括（7-13回）	疫学、保健統計のまとめと復習
16	総括	【総復習】感染症、消毒法、疫学、保健統計の問題解説

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	経絡経穴概論			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	通年	5	講義
担当教員	宗田洋美			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要

本授業では、鍼灸臨床の基礎となる経絡・経穴について学ぶ。
 経絡の流注、経穴の位置およびその意義を理解し、臨床での応用に向けた基礎力を養う。
 また、骨度法や同身寸法などの取穴方法についても学び、実際の取穴につなげる。

到達目標

- ・十四経脈の流注および主要経穴を理解する
- ・経穴の名称、部位を説明できる
- ・骨度法・同身寸法を用いて基本的な取穴法を理解する
- ・経絡・経穴を解剖学的視点（骨、筋、神経、血管）で捉えることができる

準備学習

- ・配布プリントおよび教科書を事前に確認する
- ・授業で扱った経絡・経穴を復習し、位置をイメージできるようにする

成績評価

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。
 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

使用テキスト

『新板 経絡経穴概論』（医道の日本社）
 配布プリント

授業計画

回数	単元	内容
1	経絡経穴の基礎①	経絡経穴の誕生 臓腑の概要
2	経絡経穴の基礎②	経絡の概要 経穴の概要
3	経絡経穴の基礎③	五俞穴、五要穴
4	経脈・経穴①	取穴時に関する用語
5	経脈・経穴②	督脈（流注、GV1～12）【12穴】
6	経脈・経穴③	督脈（GV13～28）【16穴】
7	経脈・経穴④	任脈（流注、CV1～12）【12穴】
8	経脈経穴⑤	任脈（CV13～24） 肺経（流注、LU1～3）【15穴】
9	経脈・経穴⑥	肺経（LU4～11） 大腸経（流注、LI1～8）【16穴】
10	経脈・経穴⑦	大腸経（LI9～20） 胃経（流注、ST1～3）【15穴】
11	経脈・経穴⑧	胃経（ST4～20）【17穴】
12	経脈・経穴⑨	胃経（ST21～37）【17穴】
13	経脈・経穴⑩	胃経（ST38～45） 脾経（流注、SP1～7）【15穴】
14	経脈・経穴⑪	脾経（SP8～21） 心経（流注、HT1～6）【20穴】
15	1学期期末試験	—
16	期末試験解説	—
17	経脈・経穴⑫	心経（HT7～9） 小腸経（流注、SI1～12）【15穴】
18	経脈・経穴⑬	小腸経（SI13～19） 膀胱経（流注、BL1～8）【15穴】
19	経脈・経穴⑭	膀胱経（BL9～25）【17穴】
20	経脈・経穴⑮	膀胱経（BL26～42）【17穴】

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名 東洋医学概論				
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	通年	5	講義
担当教員	寺田 奈生			
実務経験	-			

授業概要
何千年と続く中国伝統医学をベースに、1950年代以降、中医学独自の診断治療システムとして整理されてきた「弁証論治」は現代中医学の根幹部分になります。東洋医学概論では現代中医学のベースとなる古代思想から診察・診断にあたる「弁証」までを取り扱います。
到達目標
中医学における人体の生理学・病理学を理解し、独特な診察方法から症状を分類・解析する「弁証」が行えるまでを目標とします。
準備学習
授業前に該当箇所の教科書部分を読んでおくこと。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。(小数点以下切り捨て)

使用テキスト	新版 東洋医学概論 (公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社)
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	第1章 第1節 東洋医学の沿革 (P2~12)	中国・日本での東洋医学の歴史について
2	第1章 第2節 人体の見方 (P13~17)	「第3章 東洋医学の思想」(P182~200)を参考に、陰陽学説・五行学説について、東洋医学における人体の捉え方を学ぶ。
3	第1章 東洋医学の特徴 第3節 東洋医学的治療 (P18~28)	東洋医学における治療原則や各種治療法。「第4節 日本の東洋医学の現状」についても触れる (P29~P36)
4	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 (P38~42)	生理活動に関わる基礎物質、精の生理と病理
5	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 (P42~50)	気の生理と病理
6	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 (P50~58)	血と津液の生理と病理
7	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 (P58~62)	生理物質の相互関係
8	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 (P62~67)	神の生理と病理
9	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 (P68~73)	陰陽の生理と病理
10	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 (P74~77)	蔵象学説、臓腑とは
11	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 (P77~84)	肝の生理と病理
12	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 (P84~87)	胆の生理と病理、肝と胆の相互関係、肝と関連のある奇恒の腑
13	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 (P87~94)	心の生理と病理
14	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 (P94~97)	小腸の生理と病理、心と小腸の相互関係、心と関連のある奇恒の腑
15	まとめ・期末試験	第1章~第2章第1節までのまとめ・1学期期末試験
16	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 (P97~99、103)	脾と胃の生理と病理
17	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 (P99~105)	脾胃の病理、脾と胃の相互関係
18	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 (P106~113)	肺の生理と病理
19	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 (P113~115)	大腸の生理と病理、肺と大腸の相互関係
20	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 (P115~123)	腎の生理と病理

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	基礎はりきゅう理論			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	1学期	2	講義
担当教員	中村 理巧			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要
<p>医学における基礎研究、臨床研究の発展に伴い、鍼灸の治療効果が解明されつつある。鍼灸の科学的解明により東洋医学と西洋医学の相互理解を深めることが求められている。</p> <p>本科目では、鍼灸師に必要な鍼術・灸術の定義、施術で使用する用具、方式や術式などの鍼灸治療に対する基礎知識について学習する。</p>
到達目標
<p>鍼灸臨床で用いる用具、技術、衛生的処置について理解し説明できるようになる。</p>
準備学習
<p>予習：教科書などにより講義内容を把握しておく。</p> <p>復習：教科書、配布資料を用いて復習を行う。</p>
成績評価
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。</p> <p>定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>

使用テキスト	『はりきゅう理論』（東洋療法学校協会編、医道の日本社）
--------	-----------------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	シラバス、概要	シラバス、概要について
2	鍼の基礎知識	鍼の基礎知識について
3	刺鍼の方式と術式①	刺鍼の方式と術式について
4	刺鍼の方式と術式②	刺鍼の方式と術式について
5	灸の基礎知識	灸の基礎知識について
6	灸術の種類①	灸術の種類について
7	灸術の種類②	灸術の種類について
8	鍼灸の臨床応用	鍼灸の臨床応用について
9	リスク管理	リスク管理について
10	まとめ	総まとめ
11	定期試験	
12	試験解説	
13	オンデマンド授業	総復習
14	オンデマンド授業	総復習
15	オンデマンド授業	総復習
16	オンデマンド授業	総復習

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	基礎はりきゅう実技 I			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	通年	2	演習
担当教員	久住喜春			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要
医療人の基本となる態度、衛生操作を身につける。鍼実技の基礎基本となる、刺鍼（片手挿管・直刺・斜刺・横刺）の操作が行えるように学ぶ。施術者としてのタオルワークや患者さんへの接し方を学ぶ。医療人としての心構えを持ち施術の一連の流れを行えるように学ぶ。
到達目標
医療人としての接する態度や衛生操作までを含めた一連の流れ。指定された身体の各部位に安全かつ（直刺・斜刺・横刺）ができるようになる。3年次に行う実技認定試験で指定された刺鍼する部位に刺鍼
準備学習
習ったことを繰り返し反復練習をする。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

使用テキスト	東洋療法学校協会「はりきゅう理論」第3版 東洋療法学校協会「はりきゅう実技<基礎編>第2版」 図解鍼灸臨床手技マニュアル第2版 図解鍼灸療法技術ガイドⅠ 図解鍼灸療法技術ガイドⅡ
--------	---

授業計画		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	実技室の使い方・説明、2号館ツアー
2	鍼や道具の説明	今後の流れについて、片瀬層間①
3	片手挿管の練習	片手挿管の練習②
4	片手挿管の練習	片手挿管の練習②
5	基本刺鍼動作の流れ①	片手挿管、立管・弾入切皮、刺入・抜鍼
6	基本刺鍼動作の流れ②	片手挿管、立管・弾入切皮、刺入・抜鍼
7	基本刺鍼動作の流れ③	片手挿管、立管・弾入切皮、刺入・抜鍼（片手挿管試験）
8	基本刺鍼動作の練習	片手挿管、立管・弾入切皮、直刺にて刺入
9	自己刺鍼①	下腿にステンレス鍼による自己刺鍼
10	自己刺鍼②	下腿に銀鍼での自己刺鍼 同時進行で切皮痛試験
11	対人刺鍼①	下腿に対人刺鍼（ステンレス鍼）
12	対人刺鍼②	下腿に対人刺鍼（ステンレス鍼）
13	対人刺鍼③	下腿に対人刺鍼（ステンレス鍼）
14	定期試験前練習	試験前練習
15	定期試験	定期試験
16	定期試験	定期試験
17	基本17手技①	対人刺鍼で17手技の説明・練習①
18	基本17手技②	対人刺鍼で17手技の説明・練習②
19	基本17手技③	対人刺鍼で17手技の説明・練習③
20	基本17手技④	対人刺鍼で17手技の説明・練習④

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	基礎はりきゅう実技Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	通年	2	演習
担当教員	花香征貴			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要
医療人として適切な態度、衛生感を身につける。基礎的な施灸の行える技術と知識を身につけ安全に施術を行えるようにする。経穴の特性を理解しながら各種施灸法の訓練を行う。被験者となる学生同士の自主性が求められる内容とする。
到達目標
灸の基本的技術を身に付け実行できるようになることを目標とする。 透熱灸による人体へ配慮した施灸ができるようになる。 1学期：失眠穴へ半米粒大左右どちらかに施灸10壮/3分 2学期：失眠穴へ半米粒大交互施灸2点3壮/3分 3学期：失眠穴へ半米粒大交互施灸2点5壮/3分
準備学習
施灸動作の反復練習、施灸穴の予習
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。

使用テキスト	東洋療法学校協会「はりきゅう理論」第3版 東洋療法学校協会「はりきゅう実技<基礎編>第2版」
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	お灸について説明・灸の体験（台座灸）
2	艾炷の作成練習	透熱灸(米粒大の捻り方)
3	艾炷の作成練習	透熱灸（半米粒大の捻り方）
4	艾炷の点火	竹の上で点火練習 1
5	艾炷の点火	竹の上で点火練習 2
6	艾炷の点火	竹の上で点火練習 3・緩和練習
7	艾炷の点火	温度測定
8	個人施灸	自分の失眠への施灸
9	個人施灸	自分の足三里、三陰交への施灸
10	個人施灸	自分の合谷への施灸
11	対人施灸	相手の失眠への施灸
12	対人施灸	相手の足三里への施灸
13	対人施灸	相手の足三里、三陰交への施灸
14	定期試験前練習	
15	定期試験	失眠穴へ半米粒大左右どちらかに施灸10壮/3分
16	定期試験	失眠穴へ半米粒大左右どちらかに施灸10壮/3分
17	対人施灸	前腕前面への施灸
18	対人施灸	前腕後面への施灸
19	対人施灸	手指・手関節への施灸
20	対人施灸	上肢への施灸（復習）

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	基礎はりきゅう実技Ⅲ（生体観察）			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	2,3学期	2	演習
担当教員	中村 理巧			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要	
医療人として人の体に触れる心構え、座学で学んだ知識を実際の体で骨やランドマーク、筋肉に触って確認し、理解する。	
到達目標	
体格の違う患者に対しても体表のランドマークを触る事が出来る。	
準備学習	
予習：教科書や関連する授業などを見直し。講義内容を把握しておく。 復習：自身の体に触れるなどして復讐を行う。	
成績評価	
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。	

使用テキスト	東洋療法学校協会「はりきゅう実技<基礎編>第2版」 図解鍼灸臨床手技マニュアル第2版 図解鍼灸療法技術ガイドⅠ 図解鍼灸療法技術ガイドⅡ
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、授業について
2	触診基礎	触診についての諸注意
3	上肢の解説・触察	上腕の解説・触察
4	上肢の解説・触察	上腕の解説・触察
5	上肢の解説・触察	上腕の解説・触察
6	上肢の解説・触察	上腕の解説・触察
7	上肢の解説・触察	前腕の解説・触察
8	上肢の解説・触察	前腕の解説・触察
9	上肢の解説・触察	前腕の解説・触察
10	上肢の解説・触察	前腕の解説・触察
11	下肢の解説・触察	大腿の解説・触察
12	下肢の解説・触察	大腿の解説・触察
13	下肢の解説・触察	大腿の解説・触察
14	下肢の解説・触察	大腿の解説・触察
15	下肢の解説・触察	下腿の解説・触察
16	下肢の解説・触察	下腿の解説・触察
17	下肢の解説・触察	下腿の解説・触察
18	下肢の解説・触察	下腿の解説・触察
19	膝・足・手関節の解説・触察	膝・足・手関節の解説・触察
20	膝・足・手関節の解説・触察	膝・足・手関節の解説・触察

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	薬膳学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	1学期	2	講義
担当教員	和田政裕・和田佐和子			
実務経験	医療施設等において、管理栄養士としての実務経験を有する。			

授業概要
中国伝統医学（中医学）の基礎理論に基づき、食物を用いた病の予防や健康維持、治療などについて研究する学問を「中医栄養学」といい、薬膳とは中医学の理論に基づいた食養生法である。薬膳学 1 では基本的な五行、五季に合わせた薬膳について学ぶ。
到達目標
中国伝統医学（中医学）の基礎理論を理解した上で、食材が持つ食性や効能について理解し、季節や疾病、不調症状にあわせて的確に食材を選択できるようにし、患者へアドバイスをしたり、実際の鍼灸治療と組み合わせることで、治療効果を上げられるようにすることを目標とする。
準備学習
事前学習：東洋医学概論の授業を理解していることを前提に授業を組み立てています。東洋医学概論の授業で学んだことを復習しながら受講して下さい。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

使用テキスト	『すこやかな身体をつくる 薬膳食材大全』（梁蓓 監修 アプリスタイル出版 ISBN：978-4-908050-83-1）
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	薬膳とは
2	中医学の基礎理論	薬膳を学ぶための基礎知識 1
3	中医学の基礎理論	薬膳を学ぶための基礎知識 2
4	中医学の基礎理論	薬膳を学ぶための基礎知識 3
5	気と薬膳	補気の薬膳
6	気と薬膳	補気の薬膳
7	季節の薬膳	春の薬膳
8	季節の薬膳	長夏の薬膳
9	季節の薬膳	夏の薬膳
10	季節の薬膳	秋の薬膳
11	季節の薬膳	冬の薬膳
12	季節の薬膳	五季のまとめ
13	薬膳研究	薬膳を科学する
14	試験	筆記試験
15	答案返却	試験問題解説
16	栄養学と薬膳学	薬膳学と栄養学を組み合わせる

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	高齢者福祉論			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	2学期	2	講義
担当教員	桐木 智穂			
実務経験	-			

授業概要
<p>高齢者福祉の基礎知識と、加齢に伴う心身の変化、認知症等への理解を深める。特に、介護保険制度における多職種連携や、高齢者を支える生活支援技術について取り上げる。</p>
到達目標
<p>①高齢者の生活を支える社会のしくみや、多職種連携とその役割を理解する。 ②高齢者の心身の特徴と加齢変化を理解し、生活支援や健康維持に活かせる視点を身につける。</p>
準備学習
<p>第1～4回はオンデマンド授業ですので、動画を視聴し指定の課題を提出します。 第5回以降の対面授業における準備学習についてはその都度お知らせいたしますが、高齢者に関する日々のニュースや</p>
成績評価
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。(小数点以下切り捨て)</p>

使用テキスト	
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	高齢者福祉の理念と社会のしくみ	高齢者福祉の理念と歴史、高齢者の生活実態と社会環境
2	高齢者の生活を支える社会福祉制度	社会保障と高齢者福祉の制度(老人福祉法、権利擁護を支える法制度等)
3	介護保険サービスの種類と特性	介護保険制度の仕組みと利用、各サービスについて、
4	多職種連携とケアマネジメント	保健・医療・福祉と介護、介護支援専門員との連携
5	高齢者と地域福祉	地域包括ケアシステムの地区展開
6	高齢者の心身の特徴と健康①	老年期の定義と特徴、加齢に伴う心身の変化の特徴、日常生活への影響
7	高齢者の心身の特徴と健康②	高齢者に多い疾病や症状、高齢者の健康の維持・増進、保健・医療・福祉の連携
8	認知症の理解①	認知症をとりまく状況と基礎的理解、四大認知症(アルツハイマー型、レビー小体型等)の症状と医学的特徴。
9	認知症の理解②	認知症に伴う心身の変化と日常生活、認知症と地域サポート
10	終末期の理解と支援	終末期に関するところからだの関係、多職種との連携による本人および家族への支援
11	生活支援技術①	基本的な生活支援の考え方、尊厳の保持と自立支援
12	生活支援技術②	介護予防とレクリエーション
13	生活支援技術③	住環境の工夫と福祉用具
14	生活支援技術④	高齢者の生活を支えるテクノロジー
15	まとめ①	定期試験(全授業に関する試験)
16	まとめ②	定期考査解説、授業のまとめと地域共生社会の実現にむけて

令和7年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校 <鍼灸学科>

科目名		コミュニケーション		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	3学期	2	講義
担当教員	西田 弘次			
実務経験	-			

授業概要	
<p>円滑な対人関係を築くためのコミュニケーション及びメンタルコントロールに関する基本的な概念・モデル・スキルを確認及び学習し、日常生活において実際に使えるようにするための実践トレーニングを行う。</p>	
到達目標	
<p>1. 受信力、2. 発信力、3. 対人力、4. メンタル力の4つの項目において、受講前と受講後と比較し、各受講生が確実に能力を向上させる。なお、本授業の到達目標は、「分かる」（知識習得）ではなく、『出来る』（能力）であり、日常において如何に実践できるかが鍵となる。</p>	
準備学習	
<p>毎回授業で扱うテーマを日常生活において実践トレーニングする。</p>	
成績評価	
<p>第1回「授業オリエンテーション」時に説明する。 ▼成績評価の方法</p>	

使用テキスト	第1回目の授業にて説明する。
--------	----------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	授業オリエンテーション	担当講師紹介、授業の目的・内容・手法及び成績評価について (1/9)
2	現時点でのコミュニケーション力を把握する	自己及び他己チェックシート記入 (1/9)
3	受信力・発信力トレーニング 基本①	受信力・発信力の基本を身につける① (1/16)
4	受信力・発信力トレーニング 基本②	受信力・発信力の基本を身につける② (1/16)
5	受信力・発信力トレーニング 基本③	反応：笑顔・表情・身振り手振り・声量・相槌言葉 (1/23)
6	対人カトレーニング 基本	姿勢改善 (1/23)
7	受信カトレーニング 応用①	情報・意思の確認、傾聴と共感、質問の技法① (1/30)
8	受信カトレーニング 応用②	情報・意思の確認、傾聴と共感、質問の技法② (1/30)
9	発信カトレーニング 応用①	分かりやすい話し方、頼み方と断り方、会話を続ける方法① (2/6)
10	発信カトレーニング 応用②	分かりやすい話し方、頼み方と断り方、会話を続ける方法② (2/6)
11	自己対話カトレーニング 心トレ①	自己対話の認識と語彙・文章力の向上 (2/13)
12	自己対話カトレーニング 心トレ②	原因を理解するメンタリング (2/13)
13	自己対話カトレーニング 心トレ③	身体をコントロールするメンタリング (2/20)
14	自己対話カトレーニング 心トレ④	頭（認知）をコントロールするメンタリング (2/20)
15	試験	試験（レポート記入） (2/27)
16	総まとめ	全授業の総まとめと授業評価アンケート (2/27)

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	解剖学Ⅲ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	1,2学期	4	講義
担当教員	花香征貴			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要
この授業では、はじめにからだの構造を広義で学んだ後、循環器、血液と免疫、呼吸器、泌尿器の項目を学習することで、解剖学と生理学の基礎を理解し、西洋医学と東洋医学の両方の授業へつなげていく力を身につける
到達目標
授業内容とともに予習と復習の学習方法を習得し、頭の中で人体の構造がイメージできること・他の授業へつなげることができることを目標とする。
準備学習
復習：今回の授業で行った範囲を再度、読み込むを行い、理解度を確認することと頭の中でイメージできるかの確認を行う。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。(小数点以下切り捨て)

使用テキスト	教科書「解剖生理（医歯薬出版株式会社）」と配布プリント
--------	-----------------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	はじめに・概要	血管系 門脈、復習
2	第2章 心臓血管系	心臓①位置、形態、心膜、弁膜
3	第2章 心臓血管系	心臓②刺激伝導系、血管
4	第2章 心臓血管系	動脈①大動脈 全身の大きな動脈、総頸動脈、
5	第2章 心臓血管系	動脈② 鎖骨下動脈、脳動脈、上肢の動脈、
6	第2章 心臓血管系	動脈③ 胸大動脈、腹大動脈、体幹の動脈
7	第2章 心臓血管系	動脈④ 総腸骨動脈、下肢の動脈、拍動部、
8	第2章 心臓血管系	静脈① 大静脈、頭頸部の静脈、上肢の静脈
9	第2章 心臓血管系	静脈② 体幹の静脈、門脈系、総腸骨静脈
10	第2章 心臓血管系	下肢の静脈、胎児循環
11	第2章 心臓血管系	リンパ系
12	第3章 呼吸器系	鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭
13	第3章 呼吸器系	気管、気管支、肺
14	第3章 呼吸器系	肺、復習
15	期末定期試験	
16	試験振り返り	
17	オンデマンド第4章 消化器系	口腔、咽頭
18	オンデマンド第4章 消化器系	食道、胃、小腸
19	オンデマンド第4章 消化器系	大腸、肝臓
20	オンデマンド第4章 消化器系	胆嚢、膵臓、

令和7年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校 <鍼灸学科>

科目名	運動学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	1学期	2	講義
担当教員	森田 義之			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要
鍼灸師が必要な運動学を学び、臨床に応用できる知識を身に付ける。
到達目標
国家試験に出題される運動学領域を理解し、臨床で意味のある知識を習得する。
準備学習
1年次に学習した解剖学で勉強した体幹、四肢の筋肉の起始停止、作用を徹底する
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。(小数点以下切り捨て)

使用テキスト	こちらが用意した資料を使う
--------	---------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	運動のしくみ①	筋の構造と収縮
2	運動のしくみ②	運動の司令塔
3	運動のしくみ③	運動の大きさ
4	運動のしくみ④	運動軸
5	運動のしくみ⑤	運動自由度
6	運動のしくみ⑥	運動方向
7	運動のしくみ⑦	関節の構造と種類
8	徒手筋力検査①	徒手筋力検査とは
9	徒手筋力検査②	検査の目的
10	徒手筋力検査③	検査の実際①
11	徒手筋力検査④	検査の実際②
12	徒手筋力検査⑤	検査の実際③
13	歩行分析①	正常動作
14	歩行分析①	歩行周期
15	歩行分析①	歩行周期
16	歩行分析①	歩行周期
17	歩行分析①	異常動作
18	まとめ	
19	定期試験	
20	フィードバック	

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	病理学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	通年	5	講義
担当教員	西川 彰			
実務経験	-			

授業概要

病理学とは、病気に陥った身体に生じる変化からその原因を究明する学問である。この授業では、疾病の基本（概要・分類・症候・経過など）や病因を学ぶことから始め、その後は、循環障害、退行性病変、進行性病変、炎症、腫瘍、免疫異常・アレルギー、先天性異常などの疾病の成り立ちについて順次学習していく。

到達目標

- ・疾病に関する基本的知識を理解することができる。
- ・代表的な疾病の成り立ちを体系的に理解することができる。
- ・将来の資格試験合格に向けた知識も身につけることができる。

準備学習

授業で学んだ重要語句や図表などをまとめた「病理学ノート」を作成した上で、それを基に単元別の演習問題にも取り組み毎回の授業に臨むこと。

成績評価

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。

使用テキスト

東洋療法学校協会 編 『病理学概論 第2版』（医歯薬出版、2004年）

授業計画

回数	単元	内容
1	ガイダンス, 病理学とは	病理学の定義と目的, 病理学の分野, 病理学における観察方法, 組織標本染色法, 分子生物学的的方法 (ISH法)
2	疾病の基本	疾病の概念, 疾病の分類, 疾病の症候, 疾病の経過と予後
3	病因①	疾病の一般, 内因(1): 素因と体質
4	病因②	内因(2): 遺伝, 内分泌
5	病因③	内因(3): 免疫, 心因性疾患
6	病因④	外因(1): 栄養障害
7	病因⑤	外因(2): 物理的外因
8	病因⑥	外因(3): 化学的外因
9	病因⑦	外因(4): 生物学的外因
10	病因⑧	外因(5): 小児疾患
11	循環障害①	ヒトの循環系
12	循環障害②	充血・うっ血, 貧血・虚血
13	循環障害③	出血
14	循環障害④	血栓症, 塞栓症, 梗塞
15	循環障害⑤	水腫・浮腫・脱水症, ショック
16	退行性病変①	萎縮
17	退行性病変②	変性(1): 変性の定義, 変性の分類
18	退行性病変③	変性(2): 色素変性 (色素代謝異常), 生活習慣病
19	退行性病変④	変性(3): 加齢と老化, 壊死と死
20	進行性病変①	肥大と増殖, 再生

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	臨床医学総論			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	通年	5	講義
担当教員	菅原 悠衣			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要

安全かつ効果的にチーム医療を実践するには、すべての医療職種が適切な診察法を理解し、主たる証候に精通しておくことが必須である。鍼灸師においても、医療面接から始まる診察の概要を理解し、実践できることが必要である。

本科目では、西洋医学的な病態把握・診察法について学習する。

到達目標

鍼灸臨床現場での病態を判別するための知識を身につけることを目的とする。

「診察」、「生命徴候」、「身体の病的特徴」、「神経系の病的特徴」、「運動機能の病的特徴」、「検査法」について理解し説明できるようになる。

準備学習

予習：教科書などにより講義内容を理解しておく。

復習：配布資料、教科書を参考に復習を行う。

成績評価

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。

定期試験の点数を評点とし、評価とする。

使用テキスト

『臨床医学総論 第2版』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社）を使用する。

授業計画

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	科目概要の説明、1年の流れ
2	第1章 診察の概要	診察の意義、関連用語の理解・医療面接
3	第2章 診察の方法	視診、触診、打診、聴診
4	第3章 生命徴候の診察	体温、脈拍
5	第3章 生命徴候の診察	血圧、呼吸
6	第4章 全身の診察	顔貌、精神状態
7	第4章 全身の診察	言語、身体計測
8	第4章 全身の診察	体格、栄養状態
9	第4章 全身の診察	姿勢・体位、歩行
10	第4章 全身の診察	皮膚
11	第4章 全身の診察	浮腫、爪の状態、リンパ節
12	第5章 局所の診察	頭部、顔面、眼、鼻
13	第5章 局所の診察	耳、口腔、頸部
14	第5章 局所の診察	胸部、乳房、肺・胸膜
15	定期試験	1学期定期試験
16	定期試験解説	1学期定期試験解説
17	オンデマンド	第3章 生命徴候の診察
18	オンデマンド	第4章 全身の診察①
19	オンデマンド	第4章 全身の診察②
20	オンデマンド	第4章 全身の診察③

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校<鍼灸学科>

科目名	臨床医学各論			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	通年	10	講義
担当教員	西田 睦			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要
「臨床医学各論」は鍼灸師に必要とされる疾患の診断および特徴・症状・検査・治療等に関する基礎的な知識について学ぶ。
到達目標
疾患の特性を理解して鍼灸施術の不適応を正しく判断できるとともに、国家試験合格水準の知識を身に着けることを目標とする。
準備学習
教科書とプリントを用いた授業の復習を中心とし、参考書やインターネットなども用いて国家試験の過去問等4択問題に取り組む。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。

使用テキスト	臨床医学各論<第2版> 医歯薬出版
--------	-------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	整形外科疾患①	総論・関節疾患①
2	整形外科疾患②	総論・関節疾患②
3	整形外科疾患③	総論・関節疾患③
4	整形外科疾患④	総論・関節疾患④
5	整形外科疾患⑤	骨・筋腱疾患①
6	整形外科疾患⑥	骨・筋腱疾患②
7	整形外科疾患⑦	形態異常
8	整形外科疾患⑧	脊椎疾患①
9	整形外科疾患⑨	脊椎疾患②
10	整形外科疾患⑩	脊椎疾患③
11	整形外科疾患⑪	脊椎疾患④
12	整形外科疾患⑫	脊髄損傷
13	整形外科疾患⑬	外傷
14	整形外科疾患⑭	スポーツ障害
15	整形外科疾患⑮	その他整形外科①
16	整形外科疾患⑯	その他整形外科②
17	神経疾患①	脳血管疾患①
18	神経疾患②	脳血管疾患②
19	神経疾患③	感染症
20	神経疾患④	脳脊髄腫瘍①

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校<鍼灸学科>

科目名		臨床医学各論
21	神経疾患⑤	脳脊髄腫瘍②
22	神経疾患⑥	変性症①
23	神経疾患⑦	変性症②
24	神経疾患⑧	認知症
25	神経疾患⑨	筋疾患
26	神経疾患⑩	運動神経障害
27	神経疾患⑪	末梢神経障害①
28	神経疾患⑫	末梢神経障害②
29	神経疾患⑬	頭痛
30	定期試験	
31	試験解説	
32	感染症①	細菌感染症
33	感染症②	ウイルス感染症
34	感染症③	性感染症
35	消化器疾患①	口腔・食道疾患
36	消化器疾患②	胃・十二指腸疾患
37	消化器疾患③	腸疾患①
38	消化器疾患④	腸疾患②
39	消化器疾患⑤	腹膜疾患
40	肝胆膵疾患①	肝臓疾患

授業計画		
回数	単元	内容
41	肝胆膵疾患②	胆嚢・膵臓疾患
42	呼吸器疾患①	感染性呼吸器疾患
43	呼吸器疾患②	閉塞性呼吸器疾患
44	呼吸器疾患③	拘束性呼吸器疾患
45	呼吸器疾患④	その他呼吸器疾患
46	腎・尿器疾患①	腎不全
47	腎・尿器疾患②	感染症
48	腎・尿器疾患③	結石症
49	内分泌疾患①	下垂体疾患
50	内分泌疾患②	甲状腺疾患
51	内分泌疾患③	副腎疾患
52	代謝・栄養疾患①	糖代謝異常
53	代謝・栄養疾患②	脂質代謝異常
54	代謝・栄養疾患③	その他代謝異常
55	循環器疾患①	心臓疾患①
56	循環器疾患②	心臓疾患②
57	循環器疾患③	心臓疾患③
58	循環器疾患④	冠動脈疾患
59	循環器疾患⑤	動脈疾患
60	循環器疾患⑥	血圧異常

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	臨床はりきゅう学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	2,3学期	5	講義
担当教員	葉由記子			
実務経験	▼実務経験			

授業概要
前期応用はりきゅう実技Ⅱの授業内容を振り返る。現代医療と鍼灸施術を視野に入れ、体表解剖・触察の知識、基本的な徒手検査と医療面接を学習する。
到達目標
臨床現場で遭遇する機会の多い運動器疾患を中心に下記を習得する ①正確で再現性と安全性の高い徒手検査を行えること ②組織を選択し正確に触察できること。 ③正確に患者の情報を聴取でき、患者に対する共感的態度をとれること。
準備学習
予習：授業までに指定した筋の起始停止作用を調べる
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。

使用テキスト	配布資料
--------	------

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	徒手検査、医療面接の意義 鑑別方法
2	医療面接	医療面接の具体的方法
3	医療面接	医療面接の具体的方法
4	カルテ	カルテ記入方法
5	カルテ	徒手検査 2 SOAP
6	模擬医療面接	シナリオに基づく面接練習
7	頸肩腕部	頸肩腕部の骨、僧帽筋 肩甲挙筋
8	頸肩腕部	徒手検査
9	頸肩腕部	頭板状筋 頭半棘筋
10	頸肩腕部	徒手検査
11	頸肩腕部	頸肩腕部の疾患
12	頸肩腕部	徒手検査
13	腰下肢部	腰下肢部の骨、関節 起立筋
14	腰下肢部	徒手検査
15	腰下肢部	多裂筋
16	腰下肢部	徒手検査
17	腰下肢部	臀部の筋
18	腰下肢部	徒手検査
19	定期試験	
20	上肢	上肢 骨、筋

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名		東洋医学臨床論 I		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	2,3学期	5	講義
担当教員	中村 理巧			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要	
<p>東洋医学臨床論は、各疾患に対して診察の結果をもとに、治療の適不適を判断し、適切な鍼灸治療が行えるようにする。 自分が担当する時間では、東洋医学的なアプローチを考える。</p>	
到達目標	
<p>各症状から証を立てることができる。 証に対して、適切な治則・治法を考え、治療の組み立てができる。</p>	
準備学習	
<p>教科書などにより、講義内容を把握しておく。 教科書、配布資料を参考に復習を行う。</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	<p>授業は配布プリントを中心に行う。 ・教科書『東洋医学臨床論』（東洋療法学校協会編、南江堂発行） ・図解鍼灸療法技術ガイドⅡ 文光堂発行</p>
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	東医臨とは、授業についての説明、その他Q&A
2	東洋医学概論のおさらい	東洋医学概論のおさらい
3	治療原則、治法	治療原則、治法について
4	治療穴と主治、選穴、配穴	治療穴と主治、選穴、配穴について
5	頭痛	頭痛について
6	顔面神経麻痺、顔面痛	顔面神経麻痺、顔面痛について
7	気分障害、眼精疲労	気分障害、眼精疲労について
8	睡眠障害、めまい	睡眠障害、めまいについて
9	食欲不振、歯痛	食欲不振、歯痛について
10	便秘、下痢	便秘、下痢について
11	悪心、嘔吐	悪心、嘔吐について
12	やせ、肥満	やせ、肥満について
13	咳嗽、喀痰	咳嗽、喀痰について
14	鼻閉・鼻汁・難経六十九難	鼻閉・鼻汁・難経六十九難について
15	呼吸困難	呼吸困難について
16	脱毛症、排尿障害	脱毛症、排尿障害について
17	耳鳴り、難聴	耳鳴り、難聴について
18	ED、浮腫	ED、浮腫について
19	期末試験	
20	期末試験解説・認知症	試験解説・認知症について

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	応用はりきゅう実技 I			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	2,3学期	2	演習
担当教員	河原保裕			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要
座学で学んできた東洋医学（中医学）基礎理論と診断学を臨床と結び付けていく。 基本刺鍼法や補瀉法を理解する。
到達目標
基本的刺鍼が行えるようにする。 補瀉法を行えるようにする。 整形疾患の基本的な病態把握、処方、刺鍼が出来るようにする。
準備学習
東洋医学概論など基礎知識の復習をしておく。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。

使用テキスト	担当教員より資料配布
--------	------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要解説
2	基礎	中国鍼刺鍼法
3	基礎	四診
4	基礎	中国鍼刺鍼法
5	基礎	四診
6	基礎	補瀉法
7	基礎	四診
8	基礎	補瀉法
9	基礎	六腑の生理、病理、治療
10	基礎	基本刺鍼法
11	基礎	六腑の生理、病理、治療
12	基礎	基本刺鍼法
13	基礎	五臓の生理、病理、治療
14	基礎	基本刺鍼法
15	基礎	五臓の生理、病理、治療
16	基礎	基本刺鍼法
17	基礎	痛みの概念、鑑別 経絡弁証
18	基礎	基本刺鍼法
19	整形疾患	腰痛
20	整形疾患	腰痛

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	応用はりきゅう実技Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	1,2学期	2	演習
担当教員	花香征貴			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要	
現代医療と鍼灸施術の連携を視野に入れ、運動器疾患を中心に各疾患の病態とルーティーンで用いられる検査法を学習する。また、低周波鍼通電療法を基に体表解剖・触察の知識と、刺鍼の正確性を学習する。	
到達目標	
臨床現場で遭遇する機会が多い運動器疾患を中心に ①正確で再現性と安全性の高い徒手検査法を行えること。 ②組織を選択し正確に触察できる。 ③触察した筋に再現性のある刺鍼ができるようになること。 上記を踏まえて上で、低周波鍼通電を用いて、安全に、そして臨床に適用させることができることを目的とする	
準備学習	
予習：授業までに指定した筋の起始停止作用を調べる。	
成績評価	
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。	

使用テキスト	配布資料
--------	------

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス、頸肩腕痛①	治療の流れ、徒手検査、病態把握について、肩こり
2	鍼通電療法	僧帽筋1
3	頸肩腕痛②	頸椎症
4	鍼通電療法	僧帽筋2
5	頸肩腕痛③	頸椎椎間板ヘルニア
6	鍼通電療法	頭板状筋,頭半棘筋
7	頸肩腕痛④	胸郭出口症候群
8	鍼通電療法	肩甲挙筋
9	腰殿下肢痛①	筋筋膜性疼痛、椎間関節性疼痛
10	鍼通電療法	腰部起立筋（最長筋、肋骨筋）
11	腰殿下肢痛②	腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア
12	鍼通電療法	多裂筋、（椎間関節部）
13	腰殿下肢痛③	仙腸関節痛、変形性股関節症
14	鍼通電療法	大殿筋、中殿筋
15	腰殿下肢痛④	梨状筋症候群、腰椎分離症・すべり症
16	鍼通電療法	試験前練習
17	定期試験	徒手検査
18	定期試験	鍼通電
19	上肢痛①	末梢神経障害（絞扼性神経障害）
20	鍼通電療法	尺側手根屈筋、総指伸筋

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	応用はりきゅう実技Ⅲ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	1,2学期	1	演習
担当教員	森田義之			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要
整形外科疾患を中心に、現代医学的視点に立った施術方法（トリガーポイント鍼療法を中心に）を学び身に付ける。
到達目標
整形外科疾患に関してトリガーポイント鍼療法などができるようになるために、鍼灸基礎と応用技術を身につける。
準備学習
体幹、四肢の筋肉の起始停止・作用・支配神経・血管を理解する。1年、2年で学習した鍼灸の施術方法の基礎を徹底する
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

使用テキスト	こちらが用意した資料を使う
--------	---------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	トリガーポイント鍼療法の基礎	トリガーポイント刺鍼法の歴史、効果
2	刺鍼を行う為に必要な基礎	皮下での鍼先のコントロール
3	僧帽筋に対するアプローチ	運動学や臨床的応用
4	肩甲拳筋に対するアプローチ	運動学や臨床的応用
5	三角筋に対するアプローチ	運動学や臨床的応用
6	棘下筋に対するアプローチ	運動学や臨床的応用
7	肩甲下筋に対するアプローチ	運動学や臨床的応用
8	脊柱起立筋に対するアプローチ①	運動学や臨床的応用
9	脊柱起立筋に対するアプローチ②	運動学や臨床的応用
10	大臀筋に対するアプローチ①	運動学や臨床的応用
11	大臀筋に対するアプローチ②	運動学や臨床的応用
12	中臀筋・小臀筋に対するアプローチ①	運動学や臨床的応用
13	中臀筋・小臀筋に対するアプローチ②	運動学や臨床的応用
14	大腿後面に対するアプローチ	運動学や臨床的応用
15	大腿前面に対するアプローチ	運動学や臨床的応用
16	下腿に対するアプローチ	運動学や臨床的応用
17	定期テスト	
18	定期テスト	
19	実技フィードバック	
20	まとめ	

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名		薬膳学 2		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	2学期	2	講義
担当教員	和田政裕・和田佐和子			
実務経験	医療施設等において、管理栄養士としての実務経験を有する。			

授業概要
中国伝統医学（中医学）の基礎理論に基づき、食物を用いた病の予防や健康維持、治療などについて研究する学問を「中医栄養学」といい、薬膳とは中医学の理論に基づいた食養生法である。病の予防、治療、回復を目指す薬膳の基礎から、季節の食養生、鍼灸治療と密接にかかわる各種疾患の薬膳について学ぶ。
到達目標
中国伝統医学（中医学）の基礎理論を理解した上で、食材が持つ食性や効能について理解し、季節や疾病、不調症状にあわせて的確に食材を選択できるようにし、患者へアドバイスをしたり、実際の鍼灸治療と組み合わせることで、治療効果を上げられるようにすることを目標とする。
準備学習
事前学習：東洋医学概論、薬膳学 1 の講義の教科書、配布物を読み、日々興味をもって食事をする。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

使用テキスト	『すこやかな身体をつくる 薬膳食材大全』（梁蓓 監修 アプリスタイル出版 ISBN：978-4-908050-83-1）
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス、薬膳学 1 の復習	食べることの中医学的な意味 薬膳とは 薬膳の基本の大切な考え方
2	薬膳を科学する	薬膳の研究 DNAマイクロアレイによる薬膳研究
3	中医学での治し方	中医学の不調のとらえかた 不調の原因 正気とは 気の補い方と巡らせ方
4	弁証	弁証とは 薬膳、鍼灸での治療の手順 八綱弁証
5	気血津液弁証と薬膳（オンデマンド）	気血津液弁証
6	気血津液弁証と薬膳（オンデマンド）	気虚×脾・肺 健脾の薬膳、潤肺の薬膳
7	気血津液弁証と薬膳（オンデマンド）	気虚×腎・心 補腎の薬膳、安神の薬膳
8	気血津液弁証と薬膳（オンデマンド）	気滞×肝 肝鬱気滞の薬膳
9	気血津液弁証と薬膳	血虚×肝・腎 養血・補血の薬膳
10	気血津液弁証と薬膳	血瘀×心 活血化瘀の薬膳
11	気血津液弁証と薬膳	陰虚×五臓 滋陰養血の薬膳
12	気血津液弁証と薬膳	陽虚×五臓 温陽散寒の薬膳
13	気血津液弁証と薬膳	痰湿×五臓 健脾利湿の薬膳
14	八綱弁証と薬膳 感冒の薬膳	風寒感冒の薬膳
15	試験	筆記試験
16	答案返却	試験問題の解説

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	健康科学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	1学期	2	講義
担当教員	長澤康弘			
実務経験	医療施設等において、理学療法士としての実務経験を有する。			

授業概要

健康日本21（第三次）を基盤に我が国の健康づくりの動向と課題を学び、鍼灸師に必要な知識を修得する。授業はオンデマンドで実施し、各回視聴後に課題（確認テスト）に取り組む。

到達目標

健康日本21（第三次）の内容を基盤として、我が国における健康づくりの現状や課題、主要な対策の方向性を概説できる。あわせて、動画視聴後に実施する確認テストに主体的に取り組むことで、鍼灸師国家試験に向けた健康科学分野の基礎知識を段階的に修得する。

準備学習

健康日本21（第三次）の内容にあらかじめ目を通し、全体像を把握しておくこと。あわせて、必要に応じて各自が購入しているリハビリテーション医学関連のテキストを参照しておくこと。

成績評価

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。
本授業（オンデマンド形式）の成績は、各回の確認テスト（10問、全16回）の結果によって評価する。各回の得点をもとに平均点を算出し、その平均点を本科目の最終評価とする。

使用テキスト

公益社団法人東洋療法学校協会編『新版リハビリテーション医学 第1版』および配布資料を使用する。

授業計画

回数	単元	内容
1	我が国の健康づくり	授業の目的・進め方・評価方法を説明し、我が国の健康づくりの動向と課題を概説する。
2	身体活動	健康づくりにおける身体活動の意義と推奨量、関連する健康効果について理解する。
3	歩行運動学	歩行周期と各相の特徴、歩行に関連する力学的要素を理解する。
4	フレイル, ロコモティブシンドローム, サルコペニア	フレイル・ロコモ・サルコペニアの概念と評価、予防の考え方を理解する。
5	骨粗鬆症	骨粗鬆症の病態・危険因子、評価方法と予防・運動療法の基本を理解する。
6	認知症	認知症の病態・危険因子と予防、生活支援の基本的な考え方を理解する。
7	メンタルヘルス	メンタルヘルスの基礎知識と主な疾患、予防と支援のあり方を理解する。
8	栄養, メタボリックシンドローム	栄養の基礎とメタボリックシンドロームの病態、予防対策を理解する。
9	睡眠	睡眠の役割と健康への影響、睡眠障害の基礎と改善方法を理解する。
10	生活習慣病予防：心疾患	心疾患の病態と危険因子、予防と生活習慣改善の基本を理解する。
11	生活習慣病予防：COPD	COPDの病態と危険因子、予防と生活習慣改善の基本を理解する。
12	生活習慣病予防：糖尿病	糖尿病の病態と危険因子、予防と生活習慣改善の基本を理解する。
13	生活習慣病予防：脳卒中	脳卒中の病態と危険因子、予防と生活習慣改善の基本を理解する。
14	生活習慣病予防：がん	がんの主な危険因子と予防、早期発見・検診の重要性を理解する。
15	慢性疼痛	慢性疼痛の病態と影響、評価とセルフマネジメントの基本を理解する。
16	介護保険制度	介護保険制度の目的と仕組み、サービス内容と利用の流れを理解する。

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	リハビリテーション実践			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	2学期	2	講義
担当教員	長澤康弘			
実務経験	医療施設等において、理学療法士としての実務経験を有する。			

授業概要	
リハビリテーション実践に必要な検査・測定の基礎を学び、臨床での活用方法を理解する。授業はオンデマンド形式で実施し、各回の講義視聴後に課題（確認テスト）に取り組む。	
到達目標	
リハビリテーションに必要な主な検査・測定の目的と方法を説明でき、結果を臨床判断に活用する基礎力を身につける。講義内容を確認テストを通して整理し、実践に結びつけて理解する。	
準備学習	
各自が購入しているリハビリテーション医学関連のテキストを参照しておくこと。	
成績評価	
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。 本授業（オンデマンド形式）の成績は、各回の確認テスト（10問、全16回）の結果によって評価する。各回の得点をもとに平均点を算出し、その平均点を本科目の最終評価とする。	

使用テキスト	公益社団法人東洋療法学校協会編『新版リハビリテーション医学 第1版』および配布資料を使用する。
--------	---

授業計画		
回数	単元	内容
1	国際生活機能分類（ICF）	ICFの概念と構成要素、評価の視点を学ぶ。
2	日常生活活動（ADL）評価	ADL評価の目的と主な評価尺度について学ぶ。
3	バイタルサイン	バイタルサインの正常値、リスク管理の基本を理解する。
4	関節可動域測定	関節可動域測定の目的・方法と記録法、評価の留意点を理解する。
5	徒手筋力検査（MMT）	MMTの目的と方法、判定基準と臨床での活用を理解する。
6	運動療法（筋トレを中心に）	筋力トレーニングを中心とした運動療法の基本的な実施方法を理解する。
7	肩関節疾患の徒手検査	肩関節疾患に対する主な徒手検査の方法と解釈を理解する。
8	肘・手関節疾患の徒手検査	肘・手関節疾患に対する徒手検査の方法と評価のポイントを理解する。
9	下肢疾患の徒手検査	下肢疾患に対する徒手検査の方法と評価の基本を理解する。
10	頸椎疾患の徒手検査	頸椎疾患に対する徒手検査の方法と評価のポイントを理解する。
11	腰部疾患の徒手検査	腰部疾患に対する徒手検査の方法と評価の基本を理解する。
12	脊髄損傷	脊髄損傷の損傷高位に応じたADL到達目標について理解する。
13	脳卒中（ブルーストロームステージ、筋緊張検査）	脳卒中の代表的なブルーストロームステージと筋緊張検査を理解する。
14	高次脳機能障害	高次脳機能障害の種類と評価、その特徴について理解する。
15	脳卒中を中心とした動作手順・指導	脳卒中患者を中心とした基本動作の手順と指導方法を理解する。
16	神経筋疾患に関わる検査測定	パーキンソン病や脊髄小脳変性症などの神経筋疾患の特徴や評価方法について理解する。

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	リハビリテーション医学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	通年	5	講義
担当教員	松村 佳樹			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要	
<p>リハビリテーションの本質である「全人間的復権」の理念を学び、障害の捉え方（ICF）や評価法、各疾患の治療過程を概説します。鍼灸師に求められる医学的知識だけでなく、多職種連携の中での役割を理解し、患者の日常生活動作（ADL）やQOL（生活の質）向上に寄与するための基礎的な臨床能力を養います。</p>	
到達目標	
<p>リハビリテーションの基本理念と、ICFによる障害の多角的な捉え方を理解・説明できる。</p> <p>脳血管障害や運動器疾患等の主要疾患における、急性期から維持期までのリハビリテーション過程とリスク管理を習得する。</p> <p>他の医療専門職の役割を理解し、鍼灸師として適切な連携を図るための知識を身につける。</p>	
準備学習	
<p>解剖学・生理学の復習：各関節の可動域や筋肉の作用、神経支配などの基礎知識を再確認</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。</p> <p>定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	新版リハビリテーション医学 公益社団法人東洋療法学校協会出版
--------	--------------------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	リハビリテーション医学の理念・目的	理念・目的についての理解
2	生活機能分類	生活機能分類についての理解
3	リハビリテーションの分野①	全体的な分野を理解
4	リハビリテーションの分野②	全体的な分野～地域リハビリテーション
5	1章の復習	4択問題から理解
6	運動学①	軸の理解
7	運動学②	脊柱～上肢の機能解剖学を理解
8	運動学③	下肢～頭部の機能解剖学を理解
9	運動学④	発達～姿勢制御について理解
10	運動学⑤	歩行～運動学習についての理解
11	診断・評価学①	リハビリテーション診断についての理解
12	診断・評価学②	検査・測定を理解
13	診断・評価学③	整形外科的検査～神経学的検査の理解
14	診断・評価学④～治療学①	ADL～ROMについて理解
15	まとめ	定期試験（全授業に関する試験）
16	治療学②	装具についての理解
17	整形外科疾患①	上肢の疾患についての理解
18	整形外科疾患②	下肢の疾患についての理解①
19	整形外科疾患③	下肢の疾患についての理解②
20	整形外科疾患④	脊椎の疾患についての理解

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校<鍼灸学科>

科目名	医療概論・社会保障制度			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	1学期	2	講義
担当教員	久住喜春			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要	
随時プリントを配布し、パワーポイントを使って座学を行う	
到達目標	
医療の歴史（日本医学史）、医療制度、社会保障制度、医療従事者の倫理、現代社会において西洋医学と東洋医学が提示する問題について理解できるようになる。	
準備学習	
事後学習：配布資料を基に復習をしておくこと	
成績評価	
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 ▼成績評価の方法	

使用テキスト	適宜プリントを配布する
--------	-------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	医療倫理	ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言他
2	医療従事者の倫理	パターナリズム、IC,IA他
3	衛生学にかかわりの深い人物	ヒポクラテス他
4	EBM	EBMの種類
5	医学史①	オンデマンド(古代以前～平安時代)
6	医学史②	オンデマンド(南北朝時代～江戸時代)
7	医学史③	オンデマンド(明治時代～近代)
8	現代医学・健康問題について	オンデマンド(西洋・東洋医学の課題)
9	医療従事者、医療施設、国民医療費	近年の医療従事者数、医療法に定める医療施設
10	社会保障制度	セーフティーネット、労災保険他
11	医療保険の仕組み	医療保険の仕組み
12	生活保護・高齢者医療制度	生活保護の種類、高齢者医療制度について
13	公費医療、介護保険制度	公費医療の種類、介護保険の概要
14	機能訓練指導員・ケアマネについて	鍼灸師としての機能訓練指導員、ケアマネについて 他
15	期末試験	筆記試験
16	試験解説	試験解説

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	公衆衛生学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	通年	5	講義
担当教員	反町 拓			
実務経験	医療施設等において、理学療法士としての実務経験を有する。			

授業概要

・臨床家にとって、患者様の治療に携わる臨床活動に加え、病気の予防や健康増進の知識と技術およびこれらが展開される保健福祉の法制・倫理の基本的知識を習得していることが必要です。この授業では疾病予防と健康の保持・増進に関わる社会医学として、「衛生学・公衆衛生学」を学びます。

到達目標

- ・衛生学・公衆衛生学の意義や成立過程を説明できる。
- ・健康と、健康にかかわる要素（ライフスタイル・環境・メンタルヘルス）について説明できる。
- ・各分野の保健制度（産業・学校・母子・成人・高齢者）について説明できる。

準備学習

- ・本シラバスを参考に各回のテーマの特に重要な部分について、教本その他文献で補備すること。
- ・各回で扱ったテーマ、課題について、ポイントをノートなどにまとめ、知識を整理しておくこと。

成績評価

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。
定期試験50%、各回の課題を50%で算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

使用テキスト

東洋療法学校協会編
「衛生学・公衆衛生学」第2版
医歯薬出版社
参考図書：「公衆衛生がみえる」メディックメディア

授業計画

回数	単元	内容
1	ガイダンス	ガイダンス 衛生学・公衆衛生とは
2	衛生学・公衆衛生学のあゆみ（1）	古代 医学のはじまり口
3	衛生学・公衆衛生学のあゆみ（2）	中世 ルネサンス期の医学【要点整理】
4	衛生学・公衆衛生学のあゆみ（3）	近世 ワクチンの開発
5	衛生学・公衆衛生学のあゆみ（4）	近代 近代細菌学・衛生学
6	衛生学・公衆衛生学のあゆみ（5）	現代 診断技術 抗生物質
7	健康について（1）	近年の国際動向
8	健康について（2）	現代の健康観
9	健康について（3）	健康増進① 【要点整理】
10	健康について（4）	健康増進② 衛生行政
11	健康について（5）	社会保障制度 ① 社会保障とは
12	健康について（6）	社会保障制度 ② 医療保険制度
13	健康について（7）	社会保障制度 ③ 社会保障制度のまとめ
14	ライフスタイルと健康（1）	栄養とライフスタイル
15	まとめと振り返り	まとめと振り返り【要点の整理】
16	環境と健康（1）	地球環境
17	環境と健康（2）	気候、騒音と健康
18	環境と健康（3）	水質汚染 大気汚染と健康
19	産業保健	保健に関する法律 労働災害
20	精神保健（1）	精神障害に関する法律

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	公衆衛生学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	通年	5	講義
担当教員	響谷 学			
実務経験	-			

授業概要
<p>公衆衛生学と医学は人々の健康を衛る学問である。臨床医学が目の前の患者さんを対象とするのに対し、公衆衛生学は公衆を対象とする。当科目では、公衆衛生学基本5領域の内、疫学、生物統計学、環境保健学を中心に扱う。特に実践的内容として消毒法についても詳説する。</p>
到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・病原体と宿主、感染経路について理解し、鍼灸師にとって必須である消毒法について実践できる ・研究論文について理解するために、生物統計学、疫学の基本を身につける ・疫学、生物統計学の指標である割合、比、率などについて理解し、保健統計の意味が理解できる
準備学習
<p>講義前：講義で取り扱う内容について教科書を一読しておくこと 講義後：課題に取り組み、講義内容の復習を行うこと</p>
成績評価
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。</p>

使用テキスト	教科書：「東洋療法学校協会編教科書 衛生学・公衆衛生学 第2版」 （東洋療法学校協会編、医歯薬出版） 参考書：「公衆衛生がみえる 2026-2027」（医療情報科学研究所編、メディアックメディア）
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	導入、危機管理と公衆衛生	イントロダクション、感染症・災害発生等時の公衆衛生活動
2	感染症とその対策 ①	感染症と微生物
3	感染症とその対策 ②	感染症の成立と予防
4	感染症とその対策 ③	免疫と臨床での感染予防
5	消毒法 ①	消毒法基礎
6	消毒法 ②	消毒の実際と感染制御
7	疫学 ①	疫学の概念と因果関係
8	疫学 ②	疫学指標
9	疫学 ③	研究デザイン
10	疫学 ④	相対危険、寄与危険、オッズ比
11	保健統計 ①	生物統計学入門
12	保健統計 ②	疫学・生物統計学の実践 保健統計の指標 ①
13	保健統計 ③	疫学・生物統計学の実践 保健統計の指標 ②
14	小括（1-6回）	感染症、消毒法のまとめと復習
15	小括（7-13回）	疫学、保健統計のまとめと復習
16	総括	【総復習】感染症、消毒法、疫学、保健統計の問題解説

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	応用はり・きゅう理論			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	2学期,3学期	3	講義
担当教員	南波 利宗			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要
『はりきゅう理論 第3版』（東洋療法学校協会編、医道の日本社発行）を使用し、座学講義を行う。随時、参考資料を提示する。
到達目標
鍼灸治効機序について知識を身につけ、理解することを目的とする。 具体的には「鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識」「鍼灸治効機序」「鍼灸治効機序と臨床の接点」について説明できるようになる。
準備学習
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。

使用テキスト	『はりきゅう理論 第3版』（東洋療法学校協会編、医道の日本社発行）を使用する。
--------	---

授業計画		
回数	単元	内容
1	第8章	はじめに、運動系の調節
2	第8章	運動系の調節
3	第8章	内臓系の調節（自律神経系）
4	第8章	内臓系の調節（自律神経系）
5	第8章	内臓系の調節（自律神経系）
6	第8章	内臓系の調節（内分泌系）
7	第8章	感覚（総論）
8	第8章	感覚（痛み）
9	第8章	感覚（痛み）
10	第8章	感覚（痛み）
11	第8章	感覚（温度覚、触覚、圧覚、振動覚）
12	第8章	感覚（固有感覚、内臓感覚）
13	第8章	熱傷（炎症）
14	第8章	熱傷（炎症）、体表の反応
15	第9章	鍼鎮痛（全身性鎮痛）
16	第9章	鍼鎮痛（全身性鎮痛）
17	第9章	鍼鎮痛（脊髄分節性鎮痛、末梢性鎮痛）
18	第9章	循環系と鍼灸（皮膚循環、筋循環）
19	第9章	循環系と鍼灸（心拍数、血圧）
20	第9章	運動系と鍼、消化器系と鍼、泌尿器系と鍼

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名		東洋医学臨床論		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	通年	10	講義
担当教員	白崎 史剛			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要	
東洋医学臨床論の「西洋」を基本として、筋肉・神経などと経穴の関係や理学検査を把握した上で各疼痛について分類や症状からどのように施術していくかを理解する。	
到達目標	
患者さんの症状から東洋医学の観点とは別に西洋医学としてアプローチができるようになる。	
準備学習	
次回の授業で行うレジメを予習すると同時にその範囲の臨床医学各論を復習してくること。	
成績評価	
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。	

使用テキスト	新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編） 南江堂 図解 鍼灸療法技術ガイド I・II 文光堂
--------	---

授業計画		
回数	単元	内容
1	第1節 疼痛 I.概説	概要 疼痛
2	II.頭痛	頭痛
3	III.顔面痛	顔面痛
4	第4節 その他の症候 I.顔面麻痺	顔面麻痺
5	オンデマンド授業①	オンデマンド授業「筋肉と経穴①」
6	オンデマンド授業②	オンデマンド授業「筋肉と経穴②」
7	オンデマンド授業③	オンデマンド授業「神経・動脈と経穴」
8	オンデマンド授業④	オンデマンド授業「理学検査」
9	第1節 疼痛 V.頸肩腕痛	頸肩腕痛①
10	〃	頸肩腕痛②
11	VI.上肢痛	上肢痛①
12	〃	上肢痛②
13	VII.肩関節痛	肩関節痛①
14	〃	肩関節痛②
15	1学期期末試験	—
16	試験解説	—
17	VIII.腰下肢痛	腰下肢痛①
18	〃	腰下肢痛②
19	IX.腰痛	腰痛①
20	〃	腰痛②

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名		病態生理学		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	1学期	2	講義
担当教員	菅原 悠衣			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要	
おもな症状の定義・概念、病態生理、原因疾患、検査法、治療について学習する。	
到達目標	
鍼灸臨床現場での病態の判別をするための知識を身につけることを目的とする。 様々な証候の病態生理について説明できるようになる。	
準備学習	
予習：教科書などにより講義内容を理解しておく。 復習：配布資料、教科書を参考に復習を行う。	
成績評価	
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。	

使用テキスト	『臨床医学総論 第2版』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社）を使用する。
--------	---

授業計画		
回数	単元	内容
1	第10章 おもな症状の診察法	頭痛・顔面痛
2	第10章 おもな症状の診察法	めまい、難聴
3	第10章 おもな症状の診察法	咳・痰、息切れ（呼吸困難）
4	第10章 おもな症状の診察法	動悸、胸痛
5	第10章 おもな症状の診察法	排尿障害、乏尿・無尿
6	第10章 おもな症状の診察法	浮腫
7	第10章 おもな症状の診察法	悪心・嘔吐、吐血・下血、意識障害
8	第10章 おもな症状の診察法	発熱、不眠、疲労・倦怠
9	第10章 おもな症状の診察法	発疹、ショック
10	第10章 おもな症状の診察法	出血傾向、易感染性
11	第10章 おもな症状の診察法	貧血、月経異常
12	第10章 おもな症状の診察法	腹痛、便秘、下痢
13	第10章 おもな症状の診察法	食欲不振、肥満、やせ（るいそう）
14	定期試験	定期試験
15	定期試験解説	定期試験解説
16	第10章 おもな症状の診察法	総論総まとめ

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	臨床はりきゅう実技 I			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	1学期,2学期	2	演習
担当教員	河原保裕			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要

中医学の考え方を基礎に、臨床の現場に近い形で、東洋医学による診察・診断・治療ができるようになり、また自分の診断結果や治療内容について説明することができるようにする。

到達目標

1. 各疾患に対し、基本的な処方、刺鍼が行えるようにする。
2. 東洋医学的な自分の診察スタイル、診察の流れが作れる。
3. 問題解決能力（証決定、証鑑別、治療の組み立て、施術を含む）を身につける。
4. 自分の判断した証決定、治療の組み立てについて説明することができる。

準備学習

東洋医学（中医学）の基礎を復習する。

成績評価

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。
定期試験の点数を評点とし、評価とする。

使用テキスト

担当教員より資料配布

授業計画

回数	単元	内容
1	弁証論治	弁証論治
2	弁証論治	弁証論治
3	内傷性疾患	胃脘痛
4	内傷性疾患	胃脘痛
5	内傷性疾患	頭痛
6	内傷性疾患	頭痛
7	内傷性疾患	便秘
8	内傷性疾患	便秘
9	内傷性疾患	咳嗽
10	内傷性疾患	咳嗽
11	内傷性疾患	月経痛
12	内傷性疾患	月経痛
13	内傷性疾患	更年期障害
14	内傷性疾患	更年期障害
15	内傷性疾患	泌尿器疾患
16	内傷性疾患	眼精疲労
17	特殊療法	吸玉療法
18	特殊療法	吸玉療法
19	アレルギー疾患	アトピー性皮膚炎
20	アレルギー疾患	アトピー性皮膚炎

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校<鍼灸学科>

科目名	臨床はりきゅう実技Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	1学期,2学期	2	演習
担当教員	折橋 梢恵 (おりはし こずえ) 、寺田 奈生			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要	
<p>昨今、需要が高まる美容鍼灸に対して、基本的な知識や技術を実技を通じて学ぶ。 具体的には、美容鍼灸に必要なタオルワークやリスク管理、顔面部や頭部、体幹部に対する触診法や基本刺鍼の技術について学ぶ。 また臨床現場で美容鍼灸を行うための最低限の技術を身につける。</p>	
到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実技室を清潔に保つ事ができる。 2. タオルワークの基礎を学び、実践で行うことができる。 3. 顔面部に対する基本刺鍼が行える。 4. リスク管理について実践できる。 5. 美容鍼に付属する全身への施術やその他に必要な技術を身に付けることができる。 	
準備学習	
<p>授業毎に次回の授業で取り組む刺鍼部位や経穴について伝達するため、余裕があれば、その経穴の位置などを復習しておく。</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	東洋療法学校協会、『新版経絡経穴概論』,医道の日本社 折橋梢恵/光永裕之『美身鍼 新しい美容鍼灸』,ユイビ書房
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	科目概要の説明、美容鍼実技デモの見学
2	リスク管理	刺入深度の確認（毫鍼・短鍼）、内出血のリスク
3	顔面部・体幹部への基本刺鍼①	顔面部の取穴・基本刺鍼 美容鍼の施術で使用頻度の高い体幹部前面への刺鍼
4	顔面部・体幹部への基本刺鍼②	顔面部の取穴・基本刺鍼 美容鍼の施術で使用頻度の高い体幹部後面への刺鍼
5	背部兪穴への刺鍼・タオルワーク	背部への刺鍼、美容鍼灸におけるタオルワーク
6	顔面部への基本刺鍼③	押手、切皮を意識した顔面部の基本刺鍼
7	顔面部への基本刺鍼④	押手、切皮を意識した顔面部の基本刺鍼
8	てい鍼	てい鍼（刺さない鍼）と毫鍼（刺す鍼）との比較
9	テーマ別美容鍼灸①（シワ編1）	『美身鍼 新しい美容鍼灸』を参考に中医弁証に基づく美容鍼灸の基礎
10	テーマ別美容鍼灸②（シワ編2）	『美身鍼 新しい美容鍼灸』を参考に中医弁証に基づく美容鍼灸の基礎
11	テーマ別美容鍼灸③（にきび編）	『美身鍼 新しい美容鍼灸』を参考に中医弁証に基づく美容鍼灸の基礎
12	テーマ別美容鍼灸④（むくみ編）	『美身鍼 新しい美容鍼灸』を参考に中医弁証に基づく美容鍼灸の基礎
13	テーマ別美容鍼灸⑤（シミ編）	『美身鍼 新しい美容鍼灸』を参考に中医弁証に基づく美容鍼灸の基礎
14	テーマ別美容鍼灸⑥（たるみ編）	『美身鍼 新しい美容鍼灸』を参考に中医弁証に基づく美容鍼灸の基礎
15	頭部への刺鍼①	美髪を意識した頭部への基本刺鍼（前頭部）
16	頭部への刺鍼②	美髪を意識した頭部への基本刺鍼（後頭部）
17	頭部への刺鍼③	脱毛を意識した頭部への基本刺鍼
18	美容鍼灸実践①	美容鍼灸の患者を想定した全身治療に基づく美容鍼実践
19	美容鍼灸実践②	美容鍼灸の患者を想定した全身治療に基づく美容鍼実践
20	総復習	定期試験の説明、総復習

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	臨床はりきゅう実技Ⅲ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	2学期,3学期	2	演習
担当教員	小井土善彦、似田敦・小野寺文人、花香征貴			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要
鍼灸治療の現場で扱うことの多い頸・肩・腰・殿の関節症状に対して、現代鍼灸治療の基本を、講義と実技を通して解説する。(似田・小野寺) 臨床に出る際に身につけておくとよい基本的な手技を学習する(花香)
到達目標
鍼灸治療で最も患者ニーズの多い、疾患の診療の基本を習得することで、実際に治せる治療家になるための第一歩を形成する。(似田・小野寺) 基礎的な手技のやり方を身につける(花香)
準備学習
事前に履修予定部分のテキストを熟読し、不明点を講師に質問できる状況にしておくこと。(似田・小野寺)
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。

使用テキスト	
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	女性のライフサイクルと東洋医学(小井土)	月経関連症状について学び、臨床で実践するための基本技術を学ぶ
2	女性と東洋医学(小井土)	女性と東洋医学について学び、臨床基礎として触診のトレーニングを行う。
3	月経随伴症状(小井土)	月経随伴症状について学び、臨床で実践するための基本技術を学ぶ。
4	月経困難症に対する鍼灸治療(小井土)	月経困難症に対する鍼灸治療について学び、臨床で実践するための技術を学ぶ。総合実習。
5	不妊症(小井土)	不妊症について学び、臨床で実践するための基本技術を学ぶ。
6	女性不妊症に対する鍼灸治療(小井土)	不妊症に対する鍼灸治療について学び、臨床で実践するための技術を学ぶ。総合実習。(レポート課題提示)
7	更年期障害(小井土)	更年期障害について学び、臨床で実践するための基本技術を学ぶ。
8	更年期障害に対する鍼灸治療(小井土)	更年期障害に対する鍼灸治療について学び、臨床で実践するための技術を学ぶ。
9	背腰痛講義	撮診療と浅層ファッシア、脊髄神経後枝走行
10	背腰痛実技①	胸腰椎移行部刺針、小腸俞一行、外志室
11	背腰痛実技②	外縫線(胃倉、魂門)、力針、腰直
12	腰殿下肢講義	腰神経叢と仙骨神経叢の構造
13	腰殿下肢実技①	中国流環跳、日本流環跳、仙腸関節運動針
14	腰殿下肢実技②	陰部神経刺針、坐骨神経時の下肢反応穴刺針
15	頸腕痛講義	後頸部の筋構造と経穴
16	頸腕痛実技①	上天柱、天柱、風地、下風地、完骨
17	頸腕痛実技②	天窓、天鼎、肩中俞、中府
18	肩関節痛講義	肩関節の構造と筋作用
19	肩関節痛実技①	巨骨斜刺、肩髃水平刺、肩髃水平刺
20	肩関節痛実技②	天宗、天貞、膏肓水平刺、臑俞、条山透刺

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名	東洋医療総合講座 I			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	2学期,3学期	5	講義
担当教員	寺田奈生、久住喜春、花香征貴、菅原悠衣			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要
座学は、医療面接・視診・触診・検査法等の各種診察法の復習を行う。演習は、治療および症例検討を行う。治療は原則4人グループで治療者、患者、評価者に分かれて、治療におけるすべての過程を自分で考え実施する。発表は自身が施術した症例について発表し、症例検討を行う。
到達目標
診察から病態把握、治療、指導、クロージングに至る、一連の治療の流れを理解し、実施できる。カルテに一連の流れを記載できる。 患者への細かな気遣い、効率の良い時間配分、説明責任を果たし、患者を納得させるに足る鍼灸師を目指す。
準備学習
診察・診断過程における知識不足の場合には2年生までの授業内容の総復習が必要。鍼灸技術の向上など、治療にあたっての力量不足があれば、練習を行う必要がある。症例発表のためのスライド作成は各自行うこと。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。 ▼成績評価の方法

使用テキスト	特になし。必要に応じてデータ資料等を配布する。
--------	-------------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	座学①	オリエンテーション、医療面接について
2	座学②	医療面接のロールプレイ
3	座学③	SOAP カルテの記載について
4	座学④	医療面接のロールプレイ
5	座学⑤	検査法とその病態生理
6	座学⑥	検査・身体診察
7	座学⑦	電子カルテの使い方について
8	座学⑧	所見をもとに治療方針の組み立て・電子カルテに入力練習
9	演習①	治療の流れについて
10	演習②	シミュレーション
11	演習③	治療 I ①
12	演習④	振り返りとディスカッション
13	演習⑤	治療 I ②
14	演習⑥	振り返りとディスカッション
15	演習⑦	治療 I ③
16	演習⑧	振り返りとディスカッション
17	演習⑨	治療 I ④
18	演習⑩	振り返りとディスカッション
19	演習⑪	治療 II ①
20	演習⑫	治療 II ②

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <鍼灸学科>

科目名 東洋医療総合講座Ⅱ				
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	通年	5	講義
担当教員	寺田 奈生			
実務経験	-			

授業概要
<p>2年生までの科目の総復習を行う。 すでにある知識を生かすため、アクティブラーニング、グループ学習の形式をとる。 暗記項目を指定し、口頭試問を受け、一定期日までにクリアしてもらつトライアルを行う。 終盤では問題を作成し、問題解説をクラスメイトに講義してもらつ機会を与える。</p>
到達目標
<p>これまでの科目縦割りの勉強方式から科目を横断する形で勉強する方式へのシフト これまで学んできた知識をつなげて運用できるようにする 協力して勉強し、人に知識を伝え教えることで知識を深める 自学自習の習慣を身につけることを目指す</p>
準備学習
<p>毎月の模試の見直し、自分の弱点科目・強み科目の把握</p>
成績評価
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。(小数点以下切り捨て)</p>

使用テキスト	特になし（配布資料のみ）
--------	--------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	模擬試験の見直し・目標値の設定	毎月の模試の見直しポイントと苦手科目・強み科目の把握 次回模試の目標値設定について
2	四択問題の構造	4択問題の構造と作成ルールについて
3	(オンデマンド) 上肢の骨筋と経穴	骨筋の起始・停止・作用と経穴をまとめ、暗記する
4	(オンデマンド) 下肢の骨筋と経穴	骨筋の起始・停止・作用と経穴をまとめ、暗記する
5	(オンデマンド) 上下肢の神経と経穴	末梢神経の走行と経穴をまとめ、暗記する
6	(オンデマンド) 頭部の骨筋・神経と経穴	頭部の骨筋・神経の走行・経穴をまとめ、暗記する
7	解剖学問題からの展開法①	四択問題を題材に、知識を広げる
8	解剖学問題からの展開法②	四択問題を題材に、知識を広げる
9	生理学問題からの展開法①	四択問題を題材に、知識を広げる
10	生理学問題からの展開法②	四択問題を題材に、知識を広げる
11	東洋医学概論問題からの展開法①	四択問題を題材に、知識を広げる
12	東洋医学概論問題からの展開法②	四択問題を題材に、知識を広げる
13	経絡経穴概論問題からの展開法①	四択問題を題材に、知識を広げる
14	経絡経穴概論問題からの展開法②	四択問題を題材に、知識を広げる
15	まとめ・1学期末試験	1年基礎科目の総まとめ
16	臨床医学総論のポイントを覚えよう①	総論ノートを作成し、お互いに口頭試問を行う
17	臨床医学総論のポイントを覚えよう②	総論ノートを作成し、お互いに口頭試問を行う
18	臨床医学各論のポイントを覚えよう①	各論ノートを作成し、お互いに口頭試問を行う
19	臨床医学各論のポイントを覚えよう②	各論ノートを作成し、お互いに口頭試問を行う
20	東洋医学について説明しよう①	学園祭の中で、鍼灸学科以外の人に東洋医学の説明をしてみよう

